

Puzzle7 はカックロでした。皆さまプロのパズリストにとっては 10 進数のパズルなんて簡単すぎるかと考え、あえての 16 進数での出題でした。

実は私が作成した時点では黒ですがもっと少なかったんです。でも Dashtzers のみんなが口々に「解くのに 1 時間もかかった。ムズ杉」と言い出し、自分の謎解き力を棚に上げて私のパズルを勝手に書き換えやがったのです。せっかく一生懸命考えて作ったものなのでここで公開したいと思います。

3				5		9
	1		4		f	
d						
				7		2
4						
		d				b
e					4	

それでは解いていきましょう。

出発地点は左下の e(十進数では 14)です。上に伸ばそうとすると 3 が入りそうですが、3 は上で使われているので伸ばせません。

同様に青く塗った 4 を上へ伸ばせないことがわかり、やはり黒ます確定です。

3				5		9
	1		4		f	
d						
				7		2
4						
		d				b
e	7				4	

次に下図で青く塗ったますが上につながっているかどうかを考えます。

3				5		9
	1		4		f	
d						
				7		2
4						
		d				b
e	7				4	

少し考えると青いマスで示したとおりに 21 を構成できないことがわかります。従って黄色く塗ったマスのルートを通して数字をつなげていくという方針が決まります。

進めます。橙色に塗られたマスで 21 を作りたいのですが、4 が決まっているため 3 マス全てに数字を入れないと 21 に到達しません。すると d(13)との兼ね合いで数字が決まります。

3				5		9
	1		4		f	
d						
				7		2
4	9	8				
		d				b
e	7				4	

次に水色で塗られたマスについて考えます。

3				5		9
	1		4		f	
d						
				7		2
4	9	8				
		d	●			b
e	7		★		4	

この部分は数字の脱出ルートなので全て数字でなければいけません。また星が黒マスになってもいけないので、丸は6以上でなければいけません。回りの数字を考慮すると下図のように数字が入ることがわかります。

3				5		9
	1		4		f	
d						
	3			7		2
4	9	8				
	2	d	6		a	b
e	7		f	2	4	

左上についても少し進めておきましょう。

3				5		9
5	1	b	4		f	
d						
	3			7		2
4	9	8				
	2	d	6		a	b
e	7		f	2	4	

ここからが難しいところです。まずは大まかにルートを確認します。

3				5		9
5	1	b	4		f	
d						
	3			7		2
4	9	8				
	2	d	6		a	b
e	7		f	2	4	

黄色いルートと青いルートが考えられます。先に黄色いルートを使うケースについて少し考えて見ます。右上の□5□9 の部分に注目すると回りの数字との兼ね合いで数字が一通りに定まります。またそのとき自明な部分を埋めていくとおおよそ下図のようになります。

3			1	5	6	9
5	1	b	4		f	6
d			●			4
	3		●	7	★	2
4	9	8				
	2	d	6		a	b
e	7		f	2	4	

すると丸の部分は両方に数字が入る必要があり、従って自動的に青いルートがつながってしまうことがわかります。

ここからは前に戻って、『青いルートをどうやってつなげるか』に注目します。

3				5		9
5	1	b	4		f	
d						
	3			7		2
4	9	8				
	2	d	6		a	b
e	7		f	2	4	

橙色に塗られたますで 21 を作りたいのですが、①4 ます全てに数字が入るケース、②3 ますに数字が入り残りは黒ます、のいずれかが考えられます。

まずは①から考えてみます。

3				5		9
5	1	b	4		f	
d						
	3		★	7	1,5,6	2
4	9	8			6,2,1	
	2	d	6		a	b
e	7		f	2	4	

周りの数字との兼ね合いから3通りの数字の入り方がありえますが、星のますまで考慮に入れると1通りに絞れます。またこのとき6が使われてしまうので、上部のfの上のますが黒ますになってしまい、黄色いルートはつながっていない状態です。

3		●	★	5		9
5	1	b	4		f	6
d						
	3		b	7	1	2
4	9	8			6	
	2	d	6		a	b
e	7		f	2	4	

5の横、丸と星は合計16になればよく、組み合わせはたくさんあるように見えます。しかし丸の縦を見ると、b(11)の存在のため丸は10以下でなければいけません。また星の縦を見ると青ルートをつなげるために星からbまで全てつながなくてはいけないため、星は5以下でなければいけません。よって丸と星の和は15以下となり、矛盾が生じてしまいました。

以上から①の仮定は失敗に終わります。

②を考えましょう。青色ルートをつなげなければいけないという条件からここまですぐに決定できます。

3				5		9
5	1	b	4		f	
d						
	3		e	7		2
4	9	8		e	7	
	2	d	6		a	b
e	7		F	2	4	

黄色ルートは片方の端で閉じてしまったので、上部を伸ばさなければいけません。

3			●	5	★	9
5	1	b	4		f	
d			▲			
	3		e	7		2
4	9	8		e	7	
	2	d	6		a	b
e	7		f	2	4	

特に丸と星はどちらも黒ます化を回避しなくてはなりません。青色ルートをつなげるためには丸と三角には1または2が入りますが、どちらのケースでも三角の隣の黒ますが確定します。

さらに下図で、黄色い部分をつなげようと思うと四角で指定されたますに数字(a(10))が入ることはできないので、黒ますであることがわかります。

3		■	●	5	★	9
5	1	b	4		f	
d						
	3		e	7		2
4	9	8		e	7	
	2	d	6		a	b
e	7		f	2	4	

ここまで来ると、星に入ることの出来る数字が回りとの兼ね合いで決定され、その他の部分も簡単に決定できるでしょう。

3		■	1	5	6	9
5	1	b	4		f	6
d			2		■	4
	3		e	7		2
4	9	8		e	7	
	2	d	6		a	b
e	7		f	2	4	

以上となります。

ひでよし